

2004-11-25

## “ここには文化がない”と言う話し

阿部哲夫

私たちは、2001年に大網白里町に越してきました。  
さほどこの町のことを知らずに越してきたのですが、この町とかその周辺のことを知るに連れて、この町が大変気に入るようになりました。  
我々はここを終の棲家とすることに決めました。

ただ、一つ気になることがあります。  
それは、ここには文化がないという人の多いことです。  
昔からこの地にいる人の中にも、最近になってこの地に移り住んだ人の中にも、そうした人達が多いのです。それもどうもインテリを自認している人の中に、そうした人々が多いようなのです。

### 文化とは何か：

ところで皆の問題にする文化とは何でしょうか。  
広辞苑によると、“民族・種族など一定の人間共同体が、自然または野蛮の状態に止まることなく、それ自身の特定の生活理想の実現を目指して徐々に形成し来た生活の仕方とその諸表現と”とあります。  
簡単に云って、“自然と人工物とからなる生活環境の全て”と言っているように思われます。  
我々は、文化というと、どこかに、洗練された、格好の良いもの、千葉の田舎などにあるものではなくて、京都とか奈良等にあるもの、と考えてしまうところがないでしょうか。  
どうも、広辞苑の云おうとしているのはそうではなくて、人間の生活環境こそが文化なのだと言っているようなのです。その中では自然も、文化の主要な構成要素だと云っているように思われるのです。その意味で、我々の住む大網白里町など、文化都市と言っていいのではないかと思います。  
豊に、そして幸せに生活できる環境があれば、文化的と言っていいのではないのでしょうか。  
確かに京都とか奈良が文化都市と考えることには異論はないでしょう。

しかし久しぶりに田舎に行って豊かな自然に包まれ、素朴な人柄に接してホッとさせられた経験を持つ人は少なくないと思われます。これも文化と考えていいのではないのでしょうか。

結局自らの環境に如何なる価値を見いだすかが、文化を考えたときのポイントになるように思います。

洗練性に重点を置くか、素朴さに重点を置くか。

大網には文化がないという前に、先ず自分の求める文化は何なのかと自らに問いかけるべきではないでしょうか。

### **文化へのアクセス：**

常識的に、講演会とか、映画・観劇、音楽会、展覧会、美術展、博物館、研究・教育機関等を文化ないしは文化の象徴と見なす考え方が分からないではありません。

ここでは、少し見方を変えて、その文化へのアクセスと言うことを考えて見たいと思います。

私自身のことを云えば、ここに来るまでの 60 余年の間に、自慢にもなりません、琵琶の演奏会なるものに行ったことは、一度もありませんでした。ところがこの大網に来てからまだ三年ほどにしかありませんが、既に二回も琵琶の演奏を聴く機会に恵まれました。

またこの街に来る前は、2～30 年間東京にいましたが、映画を見に行ったり、演劇を見に行ったりしたのは、ほんの数回、また博物館、美術館等に行ったのは、これも数えるほどしかありませんでした。そうしたところに行く交通事情とか、駐車事情等を考えただけで、気分が萎えてしまったのでした。

確かに東京の方が所謂文化なるものは満ち満ちていると思います。しかしそうしたところへのアクセスを考えると、そうした価値を利用できる人は極限られた層になり、その利用可能性は意外に低いものになるのではないのでしょうか。

文化がない、文化がない、と言いながら、実はもともと縁のない文化を話題にしていることが多いのではないのでしょうか。

### **私どもにとって大網白里町の文化：**

この地に来てからは、今までになく演奏会とか、映画会とか、研究会とか、見学会とかに行く機会が多くなったと思います。また自然に親しむ機会も今までになく恵まれています。その上広い意味でのレクリエーションとかボランティア活動への参加も、遥かに

多くなっています。我々夫婦に関する限り、文化水準は今までの中で最高ではないかと思えます。

そうなった理由の第一は、我々二人がこの地を終の棲家とした途端、“何でも見てやろう”の精神が吹き出したことです。

第二の理由は、先に述べたように、ここでは文化へのアクセスが大変良いことです。我が家からこうした文化的な施設・場所への物理的距離は、東京などでの距離に比べると遠い。しかしここでは土地が相対的に安いこともあってか、どこに行っても駐車場などが潤沢にあります。電車で行くにしても、東京近辺の混み具合に比べれば相対的に空いています。気分的な要素も考えると、アクセスは格段に良い感じです。

第三の理由は、その気になって探すと、意外に面白い文化財がありそうだと言うことです。まだまだ見ていない、行っていないところは沢山あります。

町等が中心になってそうした情報を発信したり、必要なサービスを提供するボランティア・ネットワークと言ったものを作って行けば、候補地・候補施設は更に増えることでしょう。またそうしたボランティアを高齢者を対象に育成すれば、高齢者活用との一石二鳥をはかれるかも知れません。

### **我々の町に自信を持とう：**

我々の町に自信を持ち、あらゆる面で創造的に考えると、この町の文化の地平線はまだまだ広がるように思うのです。

外国人、とりわけ欧米人と比較すると、我々日本人は自己卑下の傾向が強すぎるように思います。創造的に考えるためには、先ずこの過剰な自己卑下から卒業することが肝心です。

その上で自分の国、自分の町、自分の家を愛することです(気障な言葉だと思いかも知れませんが)。これは、我々の大網白里町に対する姿勢についても当てはまることだと思います。

我々夫婦は色々な町を見てきました。そしてこの町が気に入りました。今やこの町に帰ってくるとホッとします。終の棲家とすることに決めました。

皆で我が町に自信を持ち、その上で諸々のアイデアを持ち寄り、我々の次の世代に、彼等の誇れる素晴らしい町を遺したいものです。

以上